

平成27年度

埋蔵文化財調査士補

資格試験 筆記問題答案用紙 (Ⅱ小論文)

受験番号	氏名	Ⅱ
B-		

試験日：平成27年8月22日(土)

東京会場：東京御茶ノ水「連合会館」

大阪会場：大阪「ホテル新大阪」

公益社団法人
 日本文化財保護協会

【Ⅱ】 次の設問から2問を選び、400字以内で述べなさい。(横書きで記述すること)

問1 調査を運営するに当たりどのように実施して行くか、また問題が起こったときにどのように対処して行くか述べよ。

【解答例】

- ・仕様書、調査計画書の検討
- ・行政担当者との信頼関係の構築
- ・調査員、作業員とのコミュニケーション
- ・問題点の早期報告
- ・調査方針の確認と実施

100 (字)

200

300

400

問2 大正末～昭和前期に縄文土器・弥生土器研究の基礎を作った研究者達について説明せよ。

【解答例】

- ・東大人類の山内、八幡、甲野について触れていること。
山内の型式と全国編年について触れていること。

- ・大山と甲野、酒詰、史前学雑誌について触れていること。

- ・森本、小林、杉原について触れていること。

- ・小林の弥生式土器聚成と唐古遺跡について触れていること。

100 (字)

200

300

400

問 3 文化財保護の観点から出土遺物保存処理作業の理念はどうあるべきかについて
以下の5つの言葉を全て用いて400字以内で述べよ（言葉の使用順は問わない。
使用箇所に下線を引くこと）。

可逆性 情報共有 展示活用 処理記録 元の状態の変更

【解答例】

貴重な文化財である出土遺物を長期にわたり安定的に保存し、また展示活用にふさわしい状態にするために保存処理がおこなわれる。遺物の材質や劣化状態に応じて適切な処理方法を選択し、処理品質は十分高度でなければならない。その一方では、元の状態の変更は必要最低限にとどめ、再処理が必要となったときに備えてなるべく現状に戻せるように可逆性に配慮する必要がある。また、作業工程や使用薬剤・機器、写真などの処理記録を作成し、関係者がいつでも閲覧できるように保管しておくことも大切である。これは一種の情報共有であるが、より望ましいのは、保存処理の工程中で発掘担当者、保存処理発注者、保存処理担当者などが連絡を取り合いながら処理を進め、新知見があればそれを共有し、処理完了後も保管・展示環境について知恵を出し合うといった積極的な情報共有の実現である。

100 (字)

200

300

400